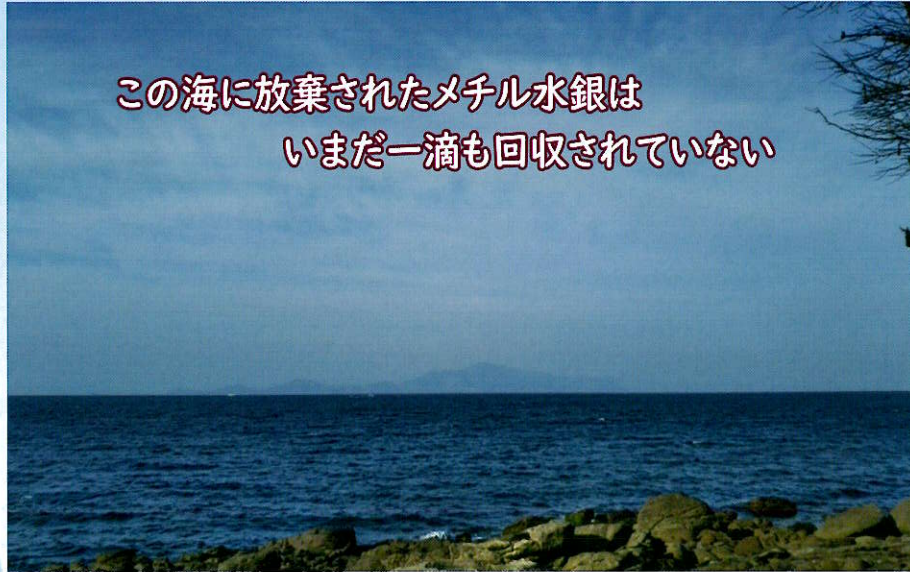


●七〇年の長さはひとに田熟をもたらす、一〇年たつとひととは周りを見渡し始める。わたしは、いま、まちづくりを考えている。

いま、「水俣」に学び、まちづくりを考える市民の連続企画 第1回

# カリンバの響きとともに みなまたの海に耳をすます 朗読の会

作 ●石牟礼道子 朗読とカリンバ演奏●井上弘久



この海に放棄されたメチル水銀は  
いまだ一滴も回収されていない

第一部(25分)

今日もよかおなご

第二部(50分)

みなまた 海のこえ

日時● 2026年

6月28日(日)

午前の部 10:30 開場 11:00 開演  
午後の部 14:00 開場 14:30 開演

会場●



会場となるこのまちの発信拠点

kichika

(定員49名)

参加費  
2500円

※18歳以下と介護者の方は無料  
※必ず、ご予約ください。



神奈川県相模原市南区相模大野  
3-23-2 パークハイム渋谷 B1  
※ 相模大野駅北口から徒歩約3分  
<https://mifumi03.com/index.php?kichika.top>  
※ 階段しかない地下1階ですが  
車椅子ユーザーの方もどうぞ。  
昇降のお手伝いをいたします。  
スタッフが会場前で待機しています。  
安心してお越しください。



井上弘久 1952生 役者・演出家  
相模原市中央区在住

劇団転円劇場、劇団Uフィールドの劇団活動を経て、2013年より小説をひとりで語って演じる独演活動を開始。2018年より石牟礼道子の『樫の海の記』全11章の舞台化に挑み、現在、同作で国内各地を巡演中。4歳の道子=「みっちゃん」、父親、母親、祖母……語り手をひとりでつとめる舞台は「現代の浄瑠璃」(田中優子氏)とも評される。今年11月にはパリ公演を控える。



石牟礼道子  
(1927-2018) 作家・詩人

水俣病患者の魂の声を文学作品として結晶させた『苦海浄土』で水俣病を日本中に知らしめる。生涯にわたって水俣病患者たちに寄り添って支えながら、文学者としては数々の傑作を世に送り出す。小説『樫の海の記』『天湖』『春の城』新作能『不知火』詩集『はにかみの国』他多数。戦後を代表する文学者のひとり。マグサイサイ賞、紫式部賞、朝日賞他受賞。

主催●「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク  
共催●NPO 法人ここずっと

※右記の予約サイトで予約いただくか  
お電話、メールで参加申込ください。

問合せ : ☎ 090-1603-0686 e-mail : info@cocozutto.jp

後援 : 相模原市 / 相模原市教育委員会 / 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会



こちらは音声コードです。  
裏面にもあります。



お目の不自由な方へ●事前にご連絡いただければ開場20分前に相模大野駅中央改札口から誘導します。お耳の不自由な方へ●受付・ご挨拶、朗読に文字表示がございます。

「水俣」を子どもたちに伝えるネットワークは、1999年から相模原で子どもたちに水俣病事件と水俣で出会った友人たちのことを伝えて、子どもたちとともに水俣から発信された学びをもらってきました。水俣病事件が包括するきわめて普遍性の高い学びは、ときに子どもたちが導き手となって、「いのちとは何か」「生きることはどういうことか」という問いを拓いてくれました。

また、わたしたちは水俣病被害当事者ではないことを自覚し、その立場からどれくらい当事者により寄り添っていけるか、どう共生を築けるかを問うことで〈まちづくり〉へとテーマを上げることができました。直接支援されている方からは、歯がゆいこと限りなく、問題をあいまい化するという誹りをいただきつつ。しかし、〈まちづくり〉が究極に「じゃなか婆」を求め、「じゃなか婆」を担う市民として成長することは、実は時代の要請でもあると考えるのです。水俣病公式確認から70年を数えるにあたり、社会を構成する市民のひとりとしてどうあらねばならないかを答えなければならない、とも考えています。

この問いに真摯に向き合わないことは、何よりも人の一生を丸々飲み込んでしまう時間の長きにわたって、水俣に生きる人びとを苦しめる側に押し込めることになるでしょう。そのとき、わたしたちは、加害者であります。そして地続きに被害者となっていくのではないのでしょうか？

答えは、しかし、明晰な言葉でもたらされるものでもありません。だから、さまざまな表現を借りて、感受性と理性とで体得しようと思います。写真や映画を観たり、お芝居を観たり、自分の言葉で語り合ったりして。そのための連続企画です。

人とひとの距離が感じられるスペースをこのまちで見つけました。やまゆり園という深い記憶とともにあるこのまちの人とともに、このスペース kichika に集うことから始めようと思います。

**NPO 法人ここずっと**は、このまちでずっとくらしたい、ずっとくらしたいと願う者で立ち上げた NPO です。まちづくりを「水俣」を伝えるという手法で考えるひとたちに触発されて、もっと「まちへ」の思いで立ち上げ、このまちのどんな人と、どんなふうにつながっていくかを具体的に提案してきたつもりです。そのために、2015 年度より〈ここ de シネマ〉という連続上映会開催活動を開始し、まちづくりの視点で展開される「ユニバーサルデザイン上映」を求めてまいりました。

地域コミュニティにおける公演及び上映会開催は、まちづくりを支えるわたしたちの気持ちや考え方を、共感のなかに育む仕掛けと考えています。だからこそ、水俣病公式確認70年、津久井やまゆり園事件10年となる今年度に、連続的な仕掛けにチャレンジします。「水俣」を子どもたちに伝えてきた方法論を刺激しつつ、感受性と理性をもって、このまちのスペース kichika から、市民文化の萌えを孕んで取り組みたく存じます。

会場にて現地・からたちサンから位入れ店

**水俣物産販売** いちじま司

開催の助けとなります。ぜひお買い求めください。

連続企画のために以下で資金カンパを募ります。

ゆうちょ銀行〇二九店 当座 0044109

郵便振替 口座番号 00280-4-44109

名義・「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク

「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク

NPO 法人ここずっと

【問合せ先】〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18

TEL090-1603-0686 e-mail:info@cocozutto.jp

後援：相模原市 / 相模原市教育委員会 / 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会

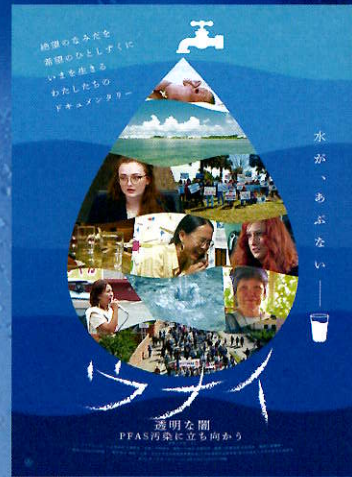
# いま、「水俣」に学び、まちづくりを考える 市民の連続企画 今後の予定

## 第2回 2026年8月22日(土)

午前の部 9:30 開場 10:00 上映開始  
午後の部 13:30 開場 14:00 上映開始  
夜間の部 18:30 開場 19:00 上映開始

**ここdeシネマ 第25回**  
**『ウナイ 透明な闇 PFASに立ち向かう』上映会**  
午前の部と午後の部のあと  
平良監督のZOOMによるトークあり  
※字幕・音声ガイド付き上映です。

参加費〇1000円 18歳以下・介護者無料 要予約



脚色：砂田 明  
出演：江良 潤  
演出：北岡清治

## 第3回 2026年 10月23日(金) 24日(土)

23日 18:30 開場 19:00 開演  
24日 14:30 開場 15:00 開演

石牟礼道子『苦海浄土』より  
てんのいお  
江良 潤  
ひとり芝居 **天の魚**

聴覚障がいの方のための字幕あり、  
開演前に視覚障がいの方のための  
舞台・衣装のガイドがあります。

参加費〇2500円 18歳以下・介護者無料  
要予約

## 第4回 2026年12月13日(日) 12:30 開場 13:00 開演

**〈椿の海の記 新章〉** 脚色・演出・出演 **井上弘久**

パリ演目の凱旋公演『椿の海の記』石牟礼道子より  
アフタートークあり ※ゲストはお楽しみ 字幕とライブによる音声ガイドあり

参加費〇3000円 18歳以下・介護者無料 要予約

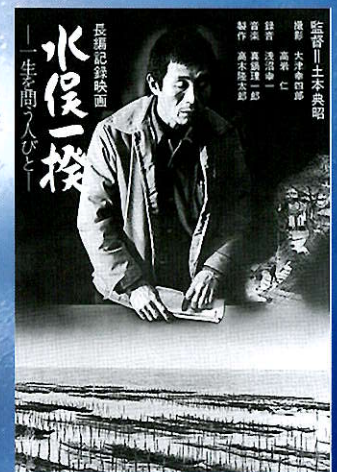
## 第5回 2027年2月11日(木・祝)

午前の部 10:00 開場 10:30 上映開始  
トーク 13:00 開場 14:30 開始  
※複数人のトークゲストを予定  
午後の分 14:30 開場 15:00 上映開始

〈ようこそ!みなまた ふたたび  
『水俣一揆〜一生を問う人びと』上映と  
トークの会〉  
音声ガイド付き  
上映・トークともオンタイム字幕

映画鑑賞〇1000円 トーク〇500円

18歳以下・介護者無料 要予約



※本連続イベントは、発行日現在の予定です。  
企画はお断りなく変更となることがございます。

